へ4
2796

京都帝国大学図書之印

利根へ門
2995

聖人を欲ハ[illegible]
く神の心にかつ[illegible]
[illegible]道[illegible]
皇子[illegible]
[illegible]業一[illegible]
[illegible]
但書朝[illegible]漢[illegible]

[illegible]のことの[illegible]ふとくとくなりたるいにしへ
[illegible]ことうり寺に佛[illegible]和尚やうく[illegible]乃園
[illegible]乃末をふくるみの小川の[illegible]ぬるう
[illegible]又上見に夢窓[illegible]師と
[illegible]世乃源氏[illegible]ゝ[illegible]神ち
の奥義[illegible]風年一心[illegible]世りさき
[illegible]行基[illegible]ち靈山乃[illegible]りとゝのと

年かゝり千光[illegible]師ゝ[illegible]
なり[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]とりく玄道[illegible]乃[illegible]
[illegible]や今世[illegible]りゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
のゝ[illegible]ゝ物[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]人の欲[illegible]
[illegible]法師乃[illegible]
乃要路不立文字の要旨[illegible]
[illegible]一快を得[illegible]
[illegible]耕雲軒明魏法師[illegible]編集
[illegible]おの[illegible]
[illegible]乃遺跡[illegible]

[illegible]
[illegible]刹民[illegible]
[illegible]
佛祖の道[illegible]
[illegible]元孫十二[illegible]九月[illegible]自[illegible]
[illegible]

正覺國師御詠

甲斐山の水上河海といふ
山中に宝を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

風雅雜上

[illegible]

庵しめとおもへれともさらす元
桐川三浦はとすといふ所より
海わたる舟にのりて須磨と云
菴をとひもとめて尋ねまゐりける
よみ給ひける
ひとしれぬ浦を旅ねの音にして
なつころもへにし須磨の浦かれ
須谷亞桐并 武衛 直義朝臣 浪川守丸

萩わく會れわりもろ小家臨済律乃
嵯峨嵐山乃花をみて高雄の人々
歌よみ侍りよ
来れゆくまれ春は山さとはわたる人よし
まつ乃花をとふれ人もあれ
又春かはに行ひて
ちれ花をとこしと恋のしるしも小花そて
わらしを志らし桜とうかなか

なはしえにほひさくらはいへとやし
花のちるひまをけきさなれ
あそれとは世のうれにまとわせて見て
かられとなる山さくらか
さくとえれ佛ひもてちらなきを
風れちかそおもひなきめる
いまみれはこそわれなしも風にそ
されくえらは思へもたつれ也

征夷将軍尊氏　西芳寺の花ざかりに
おりて法楽の後続歌よみ侍りし
なあれは人のとひ来ぬ乃をも
たつさえられ料をわすれて
花のさかりに西芳寺へ御幸なりて
ときこしめるつかうはれさしあひ
たりてのひ思ひをのふもおもちり
るはえさるひて

なほりまこそよ世れちるみあすてしや
こゝろにとまらくもの乃ちらるむ
武衛将軍禅閣 恵源 むかしの西芳寺ニ
来臨之次人〻におほくよみ侍し
なかくして世にしもひゝきあるをあとに
花ころもきてしあそひとそみる
新千載雑上
ちるをしく花をなしみ乃えたのもれ
まつのまつみゆしかは 嵐山乃紅葉

いきてなほよしてしらぬなよなきにはにほへ
又こしきは花ちりなんのちもれ
かゝるなしを見ずとはおもひしとおもひてや
こゝろのまうしく兼好ちなみゆく
征夷将軍同春来臨之時
山のまうしさく花あさくし あれたる者
世れのとつなかれ うちも見てしもるか
おの庭れ花みる世ちさにとへまさし

山かつ乃人まれなりけるをたとふる
さく花いはまをもつかしわいるかけなし
すの作りなしおいやすみなれ
手書く後庭花もまことにけりく

新拾遺 雑上

なしそられ後の世まよくなりしへて
あはれ有しさ めし花をあるかな
西芳精舎にて花ざかりく多様の侍
花 叡覧ありける翌日にたてまつりける

けふ 竹林院内大臣
さかりし花のいろかさへまつかな
ちりねさらしれ色はかはらぬ
ほかくし
花あくのころ帰しあまぎの所り
みな世れまは桜もありなか
これ勝遊を閲く事まつる山く
仙洞へ出て後はるかなる所まよみまへる

竹林院内大臣

かぎりなくおもへばなれぬるは
我乃ちをきしたかねかな
月をまちよゆめへおもかのかなれた
なをかをうてくこゝろ月をえん
かしをなしとをなれ花の春のうを
花をみるをまをなをうをとを

太上天皇

あはれとをうをうをのをにけるく
はをうを花のはるをををを
んををうをうをはるはるはをを
をををの春をををを月ををを
むのををををををいま
をうをれてををはをうをを

御らひのましかゝりて花のさか
とら年よみ給ける
花は又あれなきあとゝふへしや
ありしみゆきのたえしさくらを
花ちりてのちは西芳寺の将軍
おはしまさす
さのみやはたえてなき人ありしちかひなきの
みかはをふたゝひさけなりけるも絶

又庭の花をみてよみ給ひし
なかしくは風もまつならしの松
わの関とはかられ家の花
貞和六年仲春廿六日征夷将軍 于時亜相
相尊氏卿義詮西芳寺に来り法談之
後庭前の花に住花賞翫之次よみ給
歌よみ給
いにしへにかくやありしと花にとはゝ

ちるを花のなごりとなりもてる
いとゝ雪の庭の面白新かな春
代のをこゝろを花をもて
ゆくゝ春し枝をまつさまなきて
おもこゝろをもて世をこゝろをこゝろん

観應三年二月廿一日武蔵守軍勢
等相公相林同道して来臨法住院
庭前花下あくんを歌よまるゝ次ふ

おもこゝろをもて世をこゝろをこゝろ
花をおもふのこゝろをこゝろん
物ゝ春ゝ花ゝ月ゝは花ゝ雪ゝ
見ゝをさゝひゝくゝすゝる山ゝ陰
あれや又春ゝ花ゝなるかゝ
こゝろゝをゝ花乃面新
又ゝ春ゝ花ゝ雪ゝ中ゝ無ゝ常ゝ身ゝ
花ゝ月ゝ見ゝ人ゝ乃ゝ心ゝ

行末遠乃春はしれとはあれもらん
ひとりうれをあるかるゝ
とまの月晦方已刻入滅し給ふ
墨の衣とゝのふ
夏ゝいはるひまもなくなれまさく霞む夜ゝ
初ゝ月乃雲乃ことなるまゝ
山家新とゝ
なれいはる新緒の山れ乃ゝ

納涼

それぬるゆめのあとさめてあさぢふのすゑしきぶかのさんめ

顕房卿

山あひのあれまはてるをみうゑをかけたる庵

ゆかりをのこしぬるかけたる庵

はるかゝ侍者おくりもてなす

法園寺ちかき出ゝ方巡禮

うして門前に云山中に庵を結て

はるゝうぐひすの花をもとめ秋月九月の

うるをもとめえをもとめて

のれきゝけふんる所をかゝわる利

ぶるひやうまへの月

二階堂出羽入道西蓮亭にて中納言

為相卿の曉月房行法師為入道殿

来会法筵に後人をこゝろもとる小遣帳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今いまやこころのよかれ雲まれ
のうきさまくこころやまとの月

風雅釈教

いはのうへにいでしつきをおもかねて
こころにかかる山の陰かな
いにしへをまつ行さきにかかる
よろこぶ山の花の初ぶかし

雪秋歌　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わけて雪のふりけるに
邊り
冬川も又かさなる山の いかりかく
こゝろもまよはし庭の白雪

雪中に草木國土悉皆成佛の文を
思ひ給て
わきてこの花さく木ともしらへぬは
雪こそはともに法乃ちるなかなり
ちりかゝる雪のふりける日将軍座

新拾遺雑上
此雪はやことなく家のまもりなれ
こゝろのなきはけれつの花ちりそそれ
は雪まにはあやぬる庭の白雪 御うね 新拾遺
さきちりしはるはしい枝にしつもりぬ
二しゐまよふ松のしら雪
征夷将軍 尊氏
いかにへの雪をかさねしみのつもれと
ちよの行末をこゝろよりまちなし

天龍寺方丈の集瑞軒より雪の
ながめ
雪ふりつもりたるあさ
松と梅とさきのこりたる
ハつくみもんなかるゝ山あり
れ家とおもひ侘たる時
世をのがれ侘の住すまひ
いかゝ山れかゆきまつる舞

佛身を分て諸類に隨ふ
紙後拾遺雜下
わたれて世をそうはゆ
ゆくまにかなたなる
濃州虎溪と云山に
一すちの
出山れ
ゝ新来
世れうさ

とまねそ人乃なさけかなをそ

又箱根山にあれのすみそてさ

菴乃あり家に一夜とまりそ有人

をそ和歌ふ松風よまくらをさそ

ふのさびよもすみをん人のさびしさは

角ちきそ和歌ふ

相模國より伊豆の温泉にまつ

ま行ひをの山をたれ人里に

はこの石屋のそと岩れてさ海水山の

乃菴のそとりくすみかをそ

れ形くすの風に世をそこ和をそ

古歌に和をそ雨うちふりてたに

ふ世をすそ和をそいとま世は

おそ和なをそ

九山のあり家に風ふきをそ

かゆへ和をそ中ゝく法理わを

ちてそ和をみ給けり

世のなかはいつとはあまたもひみく
なかくすみたる山かけの庵

相州三浦のほとりに云ふよりて海
わのぞみて泊船庵としてすみ給ひ
冷泉中納言為相卿の額號まゐりけるを
あまくとゝりいそし行まちたるを
あまりひまなる
かりそめにおもひし身も一とせくらすよすかと

わすらる風ふく文まゐりわれ
為相て
さはうらとられ舟ちのわかれみと
うらひ庵すはいなくとあまりまゐらす
又三浦の庵をすてゝ総州へおもむし
ける折其庵の標なくなりたる三浦
安藝前司貞連のもとへ渡されけるを
うかゞいつゝあまねくしみをおもふなと

風雅雜中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

相引こゝ河後の世儀伊豆ゝ小條ゝ
すみまゝ雨よゝ降てゝ降つゝれまゝ
ゝ雨ゝまゝつゝん山ゝ出ゝまゝ
ゝ出ゝくゝし美濃の世ゝ中
ゝ此ゝ世ゝ世ゝ紙ゝ紙ゝ雨ゝ乃
ゝ者ゝ乃ゝ紙ゝ山ゝ出ゝまゝん
ゝゝ降ゝ雨ゝ降ゝ降ゝ
ゝゝ

ゝ此ゝ
ゝ美ゝ濃ゝ世ゝ世ゝ紙ゝ紙ゝ
山ゝ出ゝ出ゝ山ゝ出ゝ
紙ゝ乃ゝ退ゝ屏ゝ紙ゝ雨ゝ
ゝ人ゝ来ゝ出ゝ雨ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ雨ゝ雨ゝ降ゝ
ゝ

ゝ美ゝ濃ゝ山ゝ乃ゝ

こゝろもしきてう世をなれ
峯是下是皆是道場と云ん
風雅釈教
ものゝけうきさとしのなれとをを
いつくしきくし家あちなりを称
頭陀
世をすてゝ世をのがれてゝ山ををそめをしい
山がくれをしかれをみる
さとりをくつをかゝこゝろをを

まことの中れ所をひなりをれ
拾わをはわふをそなりあをゝ所を
かゝをくをつをかこうをれ
をれのをかこうをなるはうる所を
ををれうをはかたうを所し
をつをくをくを人ををうをを世をわゝ
所わをさをうをはを日をを尊
をををををををををををををて

[illegible]軒のまへを
甲斐なきみのゆきすぎ行
けふは
なれてはまつをいはゝ[illegible]
世ばかりの身をうらみ
世をうらみ流こゝ流迦葉不周こゝ聞や
[illegible]
新拾遺釈教
さとりをとりかゝるものを

きゝ[illegible]
新家佛のこゝろを
[illegible]
[illegible]
[illegible]
無輪廻中喜見福廻のこゝを
[illegible]
[illegible]
彈正親王[illegible]

のちに京にて
さしたる人のかきるる物となりて
者にはあらねどもしるしをとる
ばかりなれども
世にしらるるかたもあるべし

新撰

[illegible]
まことのうちの心なりけれ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
後醍醐院[illegible]
金剛山と云[illegible]
金剛[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

のるまれあんみはなとおりひん

離宿

いしのまくらとくちつるのあまとぬ
これやすひきのなみこあらん
月新しさうひあらとよ人あらは
作れおかるかといつまむ
紀ありのあるをうあまをうあれ
ちく庭よのうちうをうを物をおりて

物軍へまて面つくれをる間をくへ
ひをひをる
はうちうて紀ありせをあるひを
なれまれ松ゆをはあるのを
有馬の温泉よ流しあるひまれ的
をのみれ物りるを堂れおりけるる物
損して面をををりを者をを
はうへくへををををををををく

書かりて面れかり風となりぬ[illegible]まる
佛のたまをはさやゆをうん
かやうまを行きをとれりくきて
はをへてあの堂ゆるをりの神室
とりてわくをく楚こみのひーつふ
ゆのをうりと

去彼俗着家自入道存孝ふみく見
四ぎりけるを十五首の歌乃伝賜云

存孝

ぎりゆゆをを河ちをこうふをこうり武
をむうゆをこうやゆをとなるん

四首

みをこうを武楚をむうゆをこうを
いはをこをゆゆをまひなりをを

[illegible]

夏の世をおのよいまの御ひを紅

かりのうはくもなしといへは
夢の中にしゆめとおもふにも夢なるを
世の中はまことひとつもなき夢なり
花乃色月のひかりはあはれとし
見る人にはいかにつらなれし
さる花いで名月をもしてちれと花を
こゝろよからる喜悦をもなし
いはくよりむ海はまことをしな給ふ

かゝるへき身となりにおもひくらん
まことかさにの命業をもかは律そらふ
ちうれくも文さそやそれ何なむ
まいうしう去はしかすきらくあつく
かなは紙にこめくやうのしもへき
海ほ縁しゝ小志らしかすらすけくを
板りみも弟わそ科しとまつすや
いとくしれりとよを見て未む月そ

新後拾遺秋歎

ちらし庵にてて雲かゝれらし
雲よりしきりにさゝらし出くるんと
ちはしもしへ雨くわるやと
いはこてりむりふ山ちのおりのなして
まわりわる方を両としやまむ
めにのきりもしやふ山ちれ奥ゆあき
人らちうまの里いわりまれ
あらまうし卯まりきりのこれはまうて

あれは雨の世くせやどくらん
なれとみくらりしまかゝて十む人とし
とはのうり世てはかまはかまとり
きくい耳みあらいまれこれものならは
あらいなきれぬし ゐなりなん
ねくて耳こゑは雨なことおちるなと
まれしはさこのねしいわりしを
まそしてもえし し昔れたなたて

かぜ吹れば秋とはなれのつれもむ
花のなごりをかぞへつるまれ
初霜に草葉もまれる秋の夜
ちぎれ乃月乃うちをあをてた
こころとくるふすまをなれを
ねぬくさををかるをなれあれを
ちぎれとなれたれをけむ
なくこゑもまれをさよしらかりく宿

花ぢるのうたのんちをや
なをうれしくこゑりれをあをく
市ふかをちの乃秋れ月
すみてんみれあくあをくこをなへと
月をかゆをちをこをををを
世ををてむ後をは月をちをなを
あをれをををれをををう
かをれをををれをををよを

世のうき事はなにをかはなくさまん
春はうさはなくさしらしいふことのそのかに
ものとまとはさまとはかれをあるかれ
あくれはやちかのいろあるれなく山を
ひらとしちかわ世をすくはちや
角とくに麓をちかそ毎はよりを
ちかのおくを山をあり世を
頭をはは

此一首耕雲と本をて遠をかく

新後拾遺雜下

世をそむきて侍ける人のもとに
月をみるやとてやちかん
濃州鹿渓の山居にて
たのしさをよりをまさるしるをく
ひのもの吹れはるを世の花風
同所雨中
かくせをみちをはのををふをく
をおをちをしはををををる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

備國祥師氏詠

題[illegible]

[illegible]鷺のやうなる[illegible]

[illegible]

見解[illegible]

新續古今和歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝ

月はかしらひなはちを見まはしのとかに

ほのしらめくあくる山の端

あはれ人あやれ百千日の佛事なり

誦して講経ありまうすよなりぬし

新譜れ梅り鶯乃なきまれハなり

しあへをよこ読ひせる

なにれの里数しなふをきめくとり

なくハかみすゝもれし匡房

般須の庵あらく月なさこるあまりひて

三まとりたふらされ寿あしハなきけく

風の空ゝるまゝの月影

頼しらん

いはら峯いる山の端なふ汝きれて

雨洩よ庵とかくむかしの月

秋の頃よはうあやしよはりも頃く出

[illegible]

[illegible]成佛のんを

雲[illegible]の[illegible]

[illegible]の月

[illegible]入滅ちうの月を[illegible]

月なしに[illegible]山のくて

[illegible]の[illegible]を

月光仏[illegible]と云頌[illegible]

月[illegible]

[illegible]

頌[illegible]

いはくよ[illegible]

[illegible]の[illegible]山

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

金剛の山門を建てまつるに

けうれん

風雅雜中

芝風雜

まれまれ世をうとくふしてものいふ

かりのこころのもとめ

建長寺也者は西園寺殿禪門

よりの請ぜられ給ひ給ひ

初てはまゐり入えのみをはくし

世をうけてはそなはるとも

はるかふかくく請ぜられ給ひて

行ゆく後よりの行き

世を山をいてゝ世をはいとゝ西をうて

人をわすれとなりとなりもち

歌三首

かりそめに世をうとくて西をうて

うこう西のうへをもちて

よりあれをなりて見れば

[illegible]

廣天澤得解

[illegible]

野[illegible]

[illegible]

輪廻[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題しらず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あさましきまつほのうらかぜよ烟さそふく
風あるは松ハ雪をあさし世界

女房生死のうらをとゝひとをたゝ
ふるひしのさとりれいやたゝ悪と
うき世ふ生死あるりやなりやゝ